

クロストリジウム・アセトブチリカム由来のペクチンリラーゼ、組換え型

Cat. No. NATE-1223

Lot. No. (See product label)

はじめに

説明 ペクチン酸リラーゼ (EC 4.2.2.2) は、植物組織のマセレーションと軟腐敗に関与する酵素です。ペクチン酸リラーゼは、ペクチン酸の除去的切断を行い、非還元末端に4-デオキシ- α -D-マンナン-4-エヌロン酸基を持つオリゴ糖を生成します。このタンパク質は、花粉発生の後期に最大限に発現します。花粉管の成長中にペクチンの分解が必要であることに関連して、ペクチン酸リラーゼ遺伝子の花粉発現が関係している可能性が示唆されています。この酵素は、特に多糖類に作用する炭素-酸素リラーゼのファミリーに属します。

別名 (1 $\rightarrow$ 4)-アルファ-D-ガラクトuron酸リラーゼ; ポリガラクトuron酸トランスエリミナーゼ; ペクチン酸トランスエリミナーゼ; ポリガラクトuron酸リラーゼ; エンドペクチンメチルトランスエリミナーゼ; ペクチン酸トランスエリミナーゼ; エンドガラクトuron酸トランスエリミナーゼ; ペクチン酸リラーゼ; ペクチンリラーゼ; アルファ-1,4-D-エンドポリガラクトuron酸リラーゼ; PGAリラーゼ; PPase-N; エンドアルファ-1,4-ポリガラクトuron酸リラーゼ; ポリガラクトuron酸リラーゼ; ペクチン・トランスエリミナーゼ; ポリガラクトuron酸・トランスエリミナーゼ; ペクチン酸リラーゼ; EC 4.2.2.2

製品情報

由来	クロストリジウム・アセトブチリカム ATCC 824
形態	3.2 M 硫酸アンモニウムで供給されます
EC番号	EC 4.2.2.2
CAS登録番号	9015-75-2
分子量	26628.7 Da
純度	> SDS-PAGEによって判断された95%
活性	3.2 U/mg
濃度	21 U/ml
最適pH	~ 7.0
最適温度	37°C
単位定義	1ユニットは、37°Cで232 nmで測定された、0.1 mM CaCl ₂ を含む50 mM Tris-HClバッファー (pH 8.5) 中の1.3 mg/mLポリガラクトuron酸から、1分あたり1 μ molの4,5-不飽和ガラクトuron酸生成物を放出するのに必要な酵素の量として定義されます。

使用法とパッケージング

調製方法 使用前に酵素沈殿を完全に均一化するために、バイアルを十分に振とうしてください。

保管・発送情報

保存方法 4°Cで保管してください (常温で発送されます)